

第38期第2回理事会議事録

日 時：2014年6月12日（木）13時45分～18時30分

会 場：ちよだプラットフォームスクウェア ミーティングルーム001（東京都千代田区）

出席理事：新野宏，藤谷徳之助，佐藤正樹，竹内綾子，竹見哲也，中島映至，中村健治，
藤部文昭，三上正男，山田和孝，余田成男，以上11名

Web会議システムを通じた出席理事：佐藤薫*，長谷部文雄，以上2名

*：議題6の途中から出席，議題7の途中から欠席

（理事現在数20名）

出席監事：高谷康太郎，以上1名

その他の出席者：田沢，渡辺，下道（事務局）

議 題

1. 第37期第16回理事会議事録の確認

2. 第38期第1回理事会議事録の確認

3. 2014年度総会議事録の確認

4. 会員の新規加入等について

新入会員6，退会2を全会一致で承認。2014年6月6日現在，会員数3,656名で個人会員は3,411名。

5. その他

「台風研究連絡会設置申請」について検討し，設置を承認した。

6. 各委員会の引継ぎ

第38期理事会への引き継ぎ事項として，各担当理事から担当業務の内容と懸案事項についての説明が行われた。主な内容は以下の通り。

庶務…庶務担当は各種会議の司会及び議事録の作成の補助を行う。また学会事務局及び会計担当理事と密に連携し，気象学会の円滑な運営に必要な作業を行う。更に電子情報委員会と協同し，学会情報がホームページ等を通じて会員や一般に適切に開示されるよう務める。

会計…会計担当は毎月現預金の検査と会計報告を行う。また，学会事務局及び庶務担当理事と密に連携し，気象学会の円滑な運営に必要な作業を行う。

天気…第37期では，書面による著作権委譲手続きの導入について検討した。月例の編集委員会のオンライン会議の本運用を開始した。第38期では，更新した天気サーバへの移行とサイト管理体制の整備，オンライン投稿の試行的公開を検討するとともに，2014年6月で終了する「気象のABC」に代わる「天気」を親しみやすくする工夫について引き続き検討する。

気象集誌…第37期では，通常号Vol. 90-92，特別号Vol. 90 No. 5，Vol. 90A-90C，Vol. 91Aを発刊した。J-Stage3による査読システムと公開システムを開始した。Impact Factorにて2011年1.233，2012年0.800という評価を得た。第38期では，引き続き通常号の刊行と特別号の出版を行う。編集プロセスの迅速化の検討や各種規程類とWebを用いた広報強化を行う。

気象研究ノート…第37期では226～229号を刊行した。電子版ノートの会員向け配布に向

けた著作権譲渡手続きを2014年初めに完了した。マニュアルの整備を行い、原稿執筆要領及び原稿編集要領を策定した。第38期では、電子版ノートの会員向け配布の準備を進める。気象予報士や教員向けの研究ノートの刊行、我が国におけるこれまでの気象学の発展に関する歴史を刊行してはどうかという評議会の提案を検討する。

SOLA…第37期では、2012年に40編、2013年に42編、2014年（6月10日現在）20編の論文を発行した。Impact Factorにて2011年1.287、2012年1.337という評価を得た。第38期では、迅速な査読プロセスを維持した二ヶ月ルールの遵守、外国在住の編集委員の確保、J-Stageの公開システムの機能の活用（supplementの利用、comments and replyによるdiscussionの掲載、著者からの修正事項の掲載要望への対応）を検討する。Special Editionの取り決めと発行、国際的プレゼンスの向上のための広報活動も検討する。

講演企画…第37期は、2012年度秋季大会を北海道大学で、2013年度春季大会を代々木オリンピック記念青少年総合センターで、2013年度秋季大会を仙台国際センターで、2014年度春季大会を横浜市開港記念会館で行った。2012年、2013年、2014年の地球惑星科学連合大会でスペシャルセッションを行った。予稿集の電子化の試行を2012年秋季大会で実施した。第38期では、発表件数が多い秋季大会について規模拡大を含めた運営の見直しを検討するとともに、予稿集の電子化と内容の充実について検討を行う。また、教育と普及委員会で議論されているジュニアセッションの開催について運営の形態やロジ面の検討を行う。日中韓気象学会共催国際会議や公開気象講演会の開催サポートを引き続き行う。また、事務局の負担軽減を迅速に図る必要がある。

企画調整…公益法人移行後、名称を総合計画から企画調整に変更。公益社団法人移行を実施し、学会運営は順調に推移。役員候補者選挙も順調に実施。規程類の整備はほぼ完了。現在、倫理規程の策定作業を実施中。評議員会を開催するとともに、新たに支部長会議を開催。支部長会議は、学会運営に非常に貢献することを確認。第38期では、前期同様、評議員会、支部長会議を開催。内規等を含め、規程類の最終的な整備を実施するとともに、細則の修正等に関しても併せて検討。この他、学会の財政見通しの検討を行うとともに、今後予定されている、公益認定等委員会の立ち入り調査に対する対応等も検討。

学術…第37期では、「日本の気象学の現状と展望」を取りまとめた。航空機観測に関する検討部会では、科学計画書「地球環境変動の研究と自然災害現象の実態とメカニズムの解明のための航空機の利用に関する提案」を取りまとめ、また地球観測衛星部会では、「わが国の今後の衛星観測計画について」を取りまとめた。また、数値モデル部会を設立し、気候変動予測連携研究拠点の提案を行った。第38期では、気象学・大気科学の現状分析と推進方策について引き続き検討する。三部会体制を維持し、気象学会として大型研究の推進方策を検討する。

教育と普及…一般市民を対象とした気象学の知識の正しい理解と普及を目的として活動しており、夏季大学、公開気象講演会、気象サイエンスカフェ、気象教育懇談会、気象予報士CPD制度への協力を主な活動内容としている。夏季大学は毎年8月の第1

週開催とし、ここ数回はアンケートの要望に基づき土曜日と日曜日の2日間開催。公開気象講演会は2007年以来春季大会開催に合わせて毎年実施し2014年度で8回となった。テーマによっては各種委員会との共催も検討する。気象サイエンスカフェは気象予報士会との共催で運営しており、東京では2014年5月までに通算で43回開催した。各支部でも活発に開催されるようになってきている。気象教育懇談会は毎年春季大会にあわせて、気象学に関わる教育やアウトリーチについての問題を考える場として開催している。気象予報士CPD制度は気象技能の継続的な研鑽を目的として気象予報士会が中心となって導入が検討されているもので、今後研修会などの企画の情報と点数化に協力する予定である。また、ジュニアセッションの開催について、内容の検討を行う。

気象学会賞…第37期では基本的に従前の選考手順に従って、候補者の選考を行い理事会に推薦した。規程に強くこだわることなく優秀な業績を持つ研究者を推薦している。近年の推薦者数の減少傾向に鑑み、委員会内でも積極的に候補者を探す努力をしている。第38期では、他賞との違い・整合性を明確にするために、学会賞の規程を改定することを検討する必要がある。

藤原賞…従前より推薦候補者が少なく、第37期では推薦を奨励するとともに、気象学会全体あるいは分野を見渡すことができる委員により候補者を検討した。第38期の検討課題としては、他賞との差別化を確認する必要がある。

岸保賞…2014年度に創設。本賞と藤原賞及び気象学会賞との違い、重複について整理して方針を確認した。岸保賞については、最先端の科学的な知見に基づき、様々な分野、形での社会貢献を積極的に推進するための顕彰とする。第38期では方針を参考にしつつ、さらに十分に検討のうえ、推薦者を決定する。

堀内賞…2013年度、2014年度ともに4件の推薦があり、ともに2名を候補者として理事会に推薦した。1件の推薦という選定規程は現状に合わなくなっており、38期において規程の変更を理事会に諮ることが検討課題である。また、気象学の周辺分野の拡大に対応して、委員の増員を検討する。周辺分野の研究内容をフェアに評価するために推薦状の業績について詳細かつ公平に記述されている必要があり、公平な推薦状作成の方法について検討する必要がある。

正野賞…2014年度正野賞の選考にあたって、研究内容の独創性、研究テーマの重要性、気象業務への科学的貢献、研究の質の高さ、大気科学への知的貢献、国際的な評価、研究の量、研究に対する候補者の貢献度、推薦書の内容を評価の視点と確認し、2名を正野賞候補者として理事会に推薦することに決定した。第38期では正野賞の告知文の変更を理事会に働きかけることとする。

山本賞…2014年度山本賞の選考に当たり、論文と推薦文を基に2名を山本賞候補者として理事会に推薦することに決定した。ある分野で優れた研究成果を挙げていても、まだ学会に広く知られていない研究者が不利にならないよう、研究者を知る人に意見を求めることも必要。学位取得直後の若手研究者に対する表彰なので、論文の引用数はあまり参考にしない方がよいと考えられる。

奨励賞…毎年、原則として3件の奨励賞候補者を理事会に推薦するための委員会。2014年度は2件の推薦を行った。奨励賞の対象は「優秀な調査研究」となっているが、

地方の気象台などで行われているDVD-NHMを使用した調査研究をどう評価するか難しく、内規の追加説明が必要か検討が必要。

部外表彰等…気象学会外の各種団体が主宰する賞のうち、特に学会等機関推薦が可能なものに対して気象学会として推薦する候補者を選考し、推薦書を作成・応募する。2013年には推薦した近藤豊氏が東レ科学技術賞を受賞した。また宇宙開発利用大賞を岡本謙一氏が受賞した。第38期では、委員に学会賞・藤原賞以外の推薦委員会の担当理事にも入っていただくこと、育志賞の推薦が少ないため積極的な推薦を依頼すること、各賞1名推薦を原則とすること、推薦を学会内の締め切りまでには行うこと、学会内でエントリーを受け付ける際のフォームを用意すること、受賞者にお披露目の機会を設けて学会が主体的に推薦していることを分かるようにすることなどの検討をお願いしたい。

名誉会員…第37期は2度の推薦委員会を開催したほか、メール審議を行った。名誉会員の推薦について、前回は2011年3月に理事会に推薦を行ったこと、これまで概ね3年ごとに選出が行われていたことを確認した。2014年3月に名誉会員後者の推薦を行うことを確認し、推薦者を含めた候補者の選定を行い、4名の会員を名誉会員に推薦した。

国際学術交流…第37期は第6回日中韓気象学会共催国際会議が中国南京市で開催され、日本からも19名が参加した。期間中に三学会の代表者2-3人ずつが集まり、今後の合同学会の進め方について議論した。次回は2015年に日本で開催予定。若手研究者の国際集会への派遣の助成活動については、広報の改善が必要。

電子情報…気象学会のホームページとメーリングリストの管理及び運営、刊行物DVDの作成、ホームページ管理者宛ての各種問い合わせへの対応を行っている。第37期には、サブドメインの設置、学会サーバWGの立ち上げ、同WGによる会員管理や会員サービスを目指したシステム導入に向けた議論、学会各メーリングリストの新サーバへの移転等を行った。第38期には、会員管理とサービスのための学会共通サーバの導入、学会サーバ導入後のサーバ管理体制の検討、刊行物DVDの作成の継続の有無について検討を行う。

地球環境…第37期から引き続き、地球温暖化問題に関する書籍の出版に取り組んでいる。2012年に2回、2013年に4回、地球環境委員会を編集委員会と合同で開催した。書籍はこれまでに2回の査読が行われた。現在、朝倉書店を出版社に選定し、第一稿ゲラが作成された段階。

気象研究コンソーシアム…気象庁と気象学会の共同研究の共同研究運営担当者として契約を行い、運営に関する協議を行っている。平成26年4月1日現在33件の研究課題が実施中。第38期では、コンソーシアム活動と関連する専門分科会を提案・開催し、本活動の成果発表や研究交流を図る。気象学会員以外の研究者の参加について引き続き検討する。

気象災害…顕著現象・災害発生時に当該事象に関する研究会等の開催を実施。第37期では、メソ気象研究会と共催の研究会等を気象庁と東北大で開催。また、地球惑星科学連合2014年大会のユニオンセッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」に委員が参画。第38期においては、これまで同様、研究会等を開催すると

ともに、不確定性の高い防災情報をどのように社会に伝えるかという課題にも取り組む。このため、災害情報学会との連携に取り組む。

人材育成・男女共同参画…第37期において、ホームページの立ち上げと改正労働契約法に対する要請案の作成を中心に活動を行った。第38期では開設したホームページの充実を図る。キャリアエクスプローラーロゴの使用状況のモニタリングを行う。春季及び秋季大会のリクルートブースの充実を図る。

用語検討…第33期で発行が決められたWEB版気象学用語集の発行について、これまで「基本用語集」、「略語集」、「別表」の作成を完了している。残る「用語集」と「使用において注意を要する用語」についても作業の継続が望ましい。

7. 各委員会からの報告

庶務…

1) 転載許可

①申請者：株式会社日本入試センター

転載元：藤田のスケール, 日本気象学会編「気象科学事典」466 p

転載先：『理科 6年 第1回学校別サピックスオープン武蔵①』

②申請者：株式会社ミネルヴァ書房

転載元：第2図, 第4図 a, 第4図 b, 松山洋, ブラジルからの手紙(2) SACZ の下で暮らしてみれば, 天気 Vol. 47, No. 2, 161-165

・Fig16, Yasunari, T. and Seki, Y. (1992), Role of the Asian Monsoon on the Interannual Variability of the Global Climate System, J. Meteor. Soc. Japan, Vol. 70, No. 1B

・Fig2, Matsuyama, H. (1922), The Water Budget in the Amazon River Basin during the FGGE Period, J. Meteor. Soc. Japan, Vol. 70, No. 6

転載先：『自然地理学』松山洋, 川瀬久美子, 辻村真貴, 高岡貞夫, 三浦英樹著, ミネルヴァ書房 2014年6月30日刊

2) 後援名義等使用依頼受付

①名称：講演会－炭素循環・気候変動のモニタリングから緩和・適応技術へ

主催：産業技術総合研究所環境管理技術研究部
門

期日：2014年9月3日

場所：機械振興会館

名義：後援

3) その他

①6月6日：内閣府から夏季節電の依頼

会計…2014年5月分の収支及び現預金検査報告。

天気…Vol. 61 No. 6, 7 (2014年6, 7月号) の掲載記事と, Vol. 61 No. 8 (2014年8月号) の予定記事の報告。

気象集誌…Vol. 92 No. 4の予定記事の報告。

SOLA…投稿論文の処理状況の報告があった。

人材育成・男女共同参画…「有期雇用研究者の雇用環境改善のための要請」を全会一致

で採択した。理事会の正式文書として気象学会ホームページに掲載する。

表彰…山本賞受賞候補者の推薦について、推薦委員会より候補者が提示され、推薦理由についてチェックを行った。今後、全理事の投票により受賞者を決定する。

- ・正野賞受賞候補者の推薦について、推薦委員会より候補者が提示され、推薦理由についてチェックを行った。今後、全理事の投票により受賞者を決定する。
- ・堀内賞受賞候補者の推薦について、推薦委員会より候補者が提示され、推薦理由についてチェックを行った。今後、全理事の投票により受賞者を決定する。

講演企画…秋季大会の受付中。スペシャルセッションが11あり、発表時間については通常のセッションと同じとすることとなった。記念講演の時間については今後プログラムの検討を行う。

企画調整…2014年度総会議案等に寄せられた質問等に対する回答案の内容を提示。若干の加筆修正のうえ、「天気」に掲載することを理事会として承認。

電子情報…学会新サーバでのメーリングリストの利用ガイドを確認、承認した。

その他…北海道支部から気象学会秋季大会の申込み、受付について提案があった。講演企画委員会で検討の上で結果をフィードバックする。

8. その他

佐藤（正）理事より、『今後の宇宙開発体制のあり方に関する「タスクフォース会合・リモートセンシング分科会」コミュニティ』からの地球観測に関する緊急提案について報告があった。

平成26年7月17日

公益社団法人日本気象学会

理事長 新野 宏

監事 高谷康太郎